

宿泊型授業・オリエンテーションの実践と今後の課題

ACCOMMODATION-TYPE LESSONS / ORIENTATIONS: PRACTICES AND FUTURE ISSUES

青山美智子、松崎陽子、ジョーンズ・ドミニク、今井恵美子
AOYAMA Michiko, MATSUZAKI Yoko, JONES Dominic, IMAI Emiko

高野宏輝、中村徹、山口はるか、中曽根裕
TAKANO Koki, NAKAMURA Toru, YAMAGUCHI Haruka, NAKASONE Yutaka

キーワード：帰属意識 動機付け 初年次教育 交流 アクティブ・ラーニング

Key words : Sense of Belonging, Motivation, Freshman Education, Interpersonal Relationships, Active Learning

要 旨

本稿は仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科の2018年度「宿泊型授業・オリエンテーション」の取り組みについて紹介する実践報告である。将来の方向性が未定で、学びたい分野が定まらない傾向が顕著な学生を多く受け入れている本学科では、早い段階で学科への帰属意識を抱かせ、前向きな学生生活をスタートさせる動機付けが必要となる。このため2014年から「宿泊型授業・オリエンテーション」を行ってきたが、学生の気質の変化を踏まえ現行プログラムの効果を検証する必要があると考えた。そこで、2018年度入学生を対象に、現行プログラムの効果を検証するためのアンケートを実施し分析を行った。その結果、「自分の意見を発言すること」が苦手で、「人見知り」「受け身」「対人関係が苦手」な学生の存在が特徴的に捉えられた。また、「リラックスできたか」という質問に対する回答の得点が総じて低く、学生にとっては緊張を強いられる2日間であったことが推察された。以上から、入学初期段階の「宿泊型授業・オリエンテーション」の持つ役割は大きいですが、現行のプログラムの見直し・再構築が必要であることが明確となった。

Abstract English Translation

This paper is a practical report that introduces the 2018 accommodation-type lessons / orientation of the Department of Business Career, Sendai Seiyō Gakuin College. This department

accepts many students whose future direction, and field of study have not been decided yet. It is necessary to have a sense of belonging to the department at an early stage and to motivate them to start a positive student life. For this reason, we have been conducting accommodation-type lessons / orientations since 2014, but we thought that it was necessary to verify the effects of the current program in light of changes in the students' temperament. Therefore, we conducted a questionnaire and analyzed the effects of the current program for students enrolled in 2018. As a result, the existence of students who were not good at expressing their own opinions, were shy, passive, and not good at interpersonal relationships were characteristically recorded. In addition, the scores of the answer to the question, Was it relaxing? were generally low, and it was inferred that the two days were tense for the students. From the above, it became clear that although the role of accommodation-type lessons / orientations in the early stages of admission is large, it is necessary to review and reconstruct the current program.

はじめに

新入学の学生たちは、程度の差こそあれ漠然とした不安を抱いているであろう。そこで、入学当初のオリエンテーションが非常に重要になってくる。しかしながら、時代の変遷と共に入学する学生の気質も変化している。コミュニケーション能力に自信が持てない学生が増えている。他者との関係構築が苦手で、対面での意思疎通を嫌う若者も少なくない。学生寮では複数人で相部屋は敬遠され個室になっているケースが多い。さらには対人関係が原因で精神的に不安定に陥る若者も多い。こうした「コミュニケーション不全」とも言うべき状況を鑑みると、宿泊型授業・オリエンテーションの在り方についても再考すべき時期にきていると思われる。他大学においては、「人間関係づくりを志向するプログラムは、学内においても可能である」古田 他（2012）として、学外の宿泊型授業・オリエンテーションを中止した例もある。本学科内でも同様の意見があるが、まず段階的に現状実施しているプログラム内容を検証分析してみることにした。

1 2018年度宿泊型授業・オリエンテーションプログラムの概要

1-1-1 2日間の全体像

今回の宿泊型授業・オリエンテーションプログ

ラムに参加したのは、ビジネスキャリア学科新入生のうち学生男子9名、女子131名の計140名とビジネスキャリア学科の教員8名である。履修指導や学則の説明等は学内オリエンテーションで一通り実施済みで、学生は本学の方針や2年間の大まかな流れを理解したうえで臨むこととなる。そこで、2018年度の宿泊型授業・オリエンテーションの研修目標は、①大学生としての自覚と大学生活の基本を学ぶ、②仲間との交流、の2点を掲げた。プログラムの内容に関して、①は講義形式の「大学生活論『自分をプロデュースする』」を実施した。卒業後を見据え、2年間の大学生活をどのように過ごすかを学生自身に考えさせるプログラムである。講義の後、2年間の目標を詳細に記入するシートを配布して、学生自身に2年間の生活設計を考えさせて記入させた。②は、「出身地域別プレゼンテーション大会」と「ゼミ対抗スポーツゲーム」という、2種類のプログラムを実施した。いずれも学生が協同して活動することで交流を深める目的である。詳細は後述に譲るが、出身地域をPRするプレゼンテーションを行うものと、身体を動かすプログラムとに分かれている。後者は担当教員がレクリエーションの有資格者であったことから、レクリエーションの要素を取り込んだ内容となり、得手不得手の偏りが小さく全員が楽しめる競技などの内容となった。

さらに研修目標②の一環として、2日間を通し

表1 2018年度 宿泊型授業・オリエンテーション スケジュール

＜1日目＞ 4月9日（月曜日）					
時 間		場 所	内 容	所用時間	備 考
13:15	出発	正門前			
14:15	到着	岩沼リゾート			
14:40~16:10	授業	大研修室	大学生活論⑤（講義形式） ・将来の自分をプロデュース	90分	①から④は、学内オリエンテーションで実施済。
16:10	休憩				
16:20~17:50	授業		大学生活論⑥（講義形式） ・便覧より教務関連の注意	90分	
17:50	移動				
18:30~19:15	夕食	食堂		45分	
19:15~22:30	授業		基礎ゼミ①（講義形式） ・入学許可書の授与 ・自己紹介 ・ゼミ生の個別対応等	90分	
22:30	就寝				
＜2日目＞ 4月10日（火曜日）					
6:00	起床				
6:30~8:15	朝食	食堂			
9:25	集合	大研修室			
9:30~12:30	授業	大研修室	基礎ゼミ②、③（GW） ・プレゼン大会 発表準備、プレゼン発表、講評、表彰	180分	※出身地ごとのグループワーク
12:30~13:00	昼食				
13:00~14:30		体育館	大学生活論⑦（GW） ・交流ゲーム 学科長挨拶	90分	※基礎ゼミごとのグループワーク
14:35	集合				
14:50	出発				
15:50	到着	正門前	解散		

表1-2 出身地域別プレゼンテーション大会 進行表

時 間	所要	内 容
9:30-9:45	15分	・パワーポイントを使用して全体説明
9:45-10:00	15分	・話し合い会場となる体育館へ移動
10:00-10:30	30分	・各チームに分かれて話し合い (プレゼンターの選出、プレゼン内容の話し合い) ・教員も参加する
10:30-10:45	15分	・プレゼン会場へ移動
10:45-11:45	60分	・プレゼン大会 11チーム(仮)×4分+ α
11:45-12:00	15分	・プレゼンテーション論の担当教員から講評(その間に集計作業を行う) ・1位から3位の表彰

て、様々なグループ分けとグループ単位での協同作業を行い、多様な学生との交流が生まれるよう配慮した。宿泊の部屋割りにも工夫を凝らし、出席番号順で割り当てていた従来方式からランダムな部屋割りを行った。同室の学生同士が食事や宿泊を通して語り、交流が深まることを期待した。

1-2 「出身地域別プレゼンテーション大会」

1-2-1 プログラムの概要

新入生、とくに県外からの学生にとっては、初めての1人暮らしや新しい学修環境、アルバイトなどの不安要素が多い。そこで、出身地が同じ学生が集まる機会を提供することで、新学期のスタート時点において、少しでも不安を取り除けるのではないかという仮定で「出身地域別プレゼンテーション大会」を企画した。

1-2-2 プログラムのねらい

このプログラムは、「都道府県人会」のホームページを参考にした。出身地の特徴を改めて見つめ直すことで帰属意識が強まる。さらに、プレゼンテーションすることで聞く側も改めて「短期大学」という大きな集団の一員であることに気づく事ができる。このような「帰属意識の強化」にねらいを定めて実施した。

1-2-3 プログラムの具体的な内容

入学生リストから、なるべく人数が均等になるように宮城県以外の東北出身者(①青森県、②秋田県、③岩手県、④福島県、⑤山形県)と宮城県

を⑥県北、⑦県南、⑧三陸、仙台市内を⑨青葉区、⑩若林区・太白区、⑪宮城野区と11チームに分けて、プレゼンテーションを行い、教員が評価して総合得点が最も高いチームを優勝とした。

まず出身地に分かれ話し合いを行った。ねらい通り、県外出身者は出身校などの自己紹介から始め、共通の話題があるため、早い段階で話し合いが深まった。それに対して、県内のチームは共通の話題が見つからず進展に苦慮していた。結果的に、県外出身者にとっては良いきっかけを与えられるが、宮城県出身(特に仙台市内)の学生にはあまり効果が無かったと言える。

1-3 「ゼミ対抗スポーツゲーム」

1-3-1 プログラムの概要とねらい

「仲間との交流」だけでなく、ゼミ学生と担当教員の親睦を深めることも意識して実施した。プログラムは、財団法人日本レクリエーション協会が考案した「チャレンジ・ザ・ゲーム」を参考にアレンジした。「グループ内で声を掛け合い、息が合わなければ、いくら運動能力の高い人が集まったとしても、決して記録は伸びない」、「チームワークが大切でありグループ内で交流を深め、他のメンバーを思いやり、心をつなぐことでチームワークが高まっていく」という特徴・効果があり、本プログラムのねらいである「仲間との交流」に合致しており、有効なプログラム(種目)であると考えた。

1-3-2 各スポーツゲームの内容

活動時間90分で、宿泊施設の体育館を利用して実施した。活動種目は下記の4種目である。

- ② 円陣キャッチ・ザ・スティック
- ③ 長縄跳び
- ④ バルーンキャッチボール
- ⑤ ムカデタイムトライアル

これら4種目をゼミ対抗方式（1ゼミ18名～19名）で実施し、4種目の総得点（回数）で順位を競った。

教員は自分の担当するゼミチームに同行しながら、種目結果を記録する。さらに学生同士が建設的なコミュニケーションを図り、主体的かつ協力的に参加出来るようファシリテーターとしての役割を担い、チームの一員としてプログラム（種目）に参加した。

1-4 「大学生活論授業『自分をプロデュースする』」

1-4-1 プログラムの概要

このプログラムでは、4つの推奨モデルの内容やそれに対応する科目、連動する資格取得計画などを指導した。また、2年間を通したカリキュラムの履修年次、授業回数、単位数、必修科目および選択科目の確認、推奨履修モデルに設定した展開科目などを一覧できるカリキュラムマップによって可視化を図った。さらに資格取得奨学金制度の説明を行い、学生の積極的なチャレンジを促し自分の強みを身につける計画を容易に行える内容とした。

「2年間をプロデュースする」で目標設定を行い、宿泊型授業・オリエンテーションの課題として、表1-4のシートに計画を記入させる。1年次の最後に、ふりかえりとして計画した課題への取り組み、目標達成状況などを記入して提出させる。この作業によって、次年度、最終学年でのプロデュース方法の見直しが可能になる。

1-4-2 プログラムのねらいと内容

この授業では、キャリア形成の基礎的な考え方を1年後の就職活動を経て、自分自身の人生設計へと敷衍して行く内容を講義している。以下に学

修の項目を解説する。

- 1) 自分の適性と能力と可能性に気づく
- 2) 2019年 就活スケジュールの説明
- 3) 社会で求められる人材とは
- 4) 自分の行動の意識改革を!
- 5) スイッチを押すのはあなたです!
- 6) 2年間をプロデュースしよう!! (なりた
い自分になる) 記入用シートの説明・記入

2 学生のアンケート分析によるプログラムの評価と考察

本章では、本プログラムについてのアンケートの調査方法とその分析による各プログラムの評価と考察について述べる。

2-1-1 学生へのアンケート調査の概要

調査対象者は、ビジネスキャリア学科新入生のうち、宿泊型授業・オリエンテーションに参加した学生男子9名、女子131名の計140名で回収率は100%である。調査方法は、無記名方式のアンケートで、実施時期は、宿泊型授業・オリエンテーション終了から6ヵ月後に実施した。

【質問1】から【質問3】までをプログラムについての質問とし、「よくできた」を5とし、「全くできなかった」を1の範囲として5段階での回答方式とした。

2-1-2 各プログラムに対する学生の評価

■ 「出身地域別プレゼンテーション大会」

質問1-①については、「できた」と回答した学生が最も多く、43.6%であった。「よくできた」で、「普通」を合わせると、87.2%が「発言できていた」と実感している。一方、「全くできなかった」と「できなかった」を合わせると、12.1%の学生が「発言できなかった」としている。出身地域ごとのグループ編成で話をしやすい雰囲気づくりができた反面、30分間という比較的短い時間でのグループワークで、「全くできなかった」と「できなかった」の解答が合計で1割以上になったと思われる。

質問1-③に「ついては、「できた」が最も多く、「よくできた」と合わせると57.9%であった。

表1-4 「大学生生活論」 記入用シート

提出日 年 月 日 () 授業

2年間でプロデュースしよう!! (なりたい自分になる)

				学籍番号	氏名		
学習成果・到達目標		自己目標値 なりたい自分	短大入学時点 年 月 日	現在 (提出時点)	自分の課題は 何か	課題解決に向けて 2年次での取組み	
学習成果・到達目標	基礎力	複雑化する現代社会において、豊かな教養を身につけ、職業人として多角的に物事を見つめることができる。 ①基本的なビジネスマナーを身につけビジネスの現場で実践することができる。 ②収集した情報を状況に応じて適切に判断し、活用することができる。					
	人間関係力	豊かなコミュニケーション能力を身に付け、職業人として自己の能力を発揮することができる。 ①積極的かつ意図的にコミュニケーションを作りだすことができる。 ②他者の考えや立場を理解し、自分の意見を述べるこ とができる。					
	生涯学習力	継続してキャリアを積むことにより、さらなる業務遂行能力をはじめとする人間的成長ができる。 ①生涯にわたって、課題を発見し、解決する力を身につけることができる。 ②時代の変化に応じ、生涯を通じて自分のキャリアを形成していくことができる。					
資格取得	【2年間の資格取得計画】	取得するための方法			興味ある分野から順に番号に○をつけて下さい。(複数選択の場合は上位から①②…と番号付記) 1. キャリア形成関連 2. マーケティング関連 3. 会計・簿記関連 4. 秘書・マナー関連 5. 法律関連 6. 医療関連 7. 自己啓発・就職関連 8. 語学関連		

表 2-1 アンケートの集計結果 (n=140)

集計

プレゼンテーション大会							
質問 1	①自分の意見を発言することができましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答
		21	61	40	15	3	0
		15.0%	43.6%	28.6%	10.7%	2.1%	0.0%
	②仲間と協力してできましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答
		60	51	21	8	0	0
		42.9%	36.4%	15.0%	5.7%	0.0%	0.0%
③リラックスできましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答	
	26	55	41	15	2	1	
	18.6%	39.3%	29.3%	10.7%	1.4%	0.7%	
ゼミ対抗スポーツゲーム							
質問 2	①仲間と仲良くできましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答
		81	43	16	0	0	0
		57.9%	30.7%	11.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	②自分自身が楽しむことができましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答
		73	48	19	0	0	0
		52.1%	34.3%	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%
③他のゼミに勝つための工夫ができましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答	
	44	53	38	4	0	1	
	31.4%	37.9%	27.1%	2.9%	0.0%	0.7%	
大学生生活論授業「自分をプロデュースする」							
質問 3	①2年間の短さを実感できましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答
		78	46	16	0	0	0
		55.7%	32.9%	11.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	②大学生と高校生の違いが理解できましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答
		67	62	11	0	0	0
		47.9%	44.3%	7.9%	0.0%	0.0%	0.0%
③今後の学生生活のイメージができましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答	
	36	76	23	5	0	0	
	25.7%	54.3%	16.4%	3.6%	0.0%	0.0%	
宿泊授業全体							
質問 4	自分自身について「新しい気づき」ができましたか。	よくできた	できた	普通	できなかった	全くできなかった	未回答
		20	76	36	6	2	0
	14.3%	54.3%	25.7%	4.3%	1.4%	0.0%	
質問 5	その他の意見、希望、感想など。						
	(よかった点)						
	新しい友達がたくさんできて、とても良い経験になった。						
	いろいろな人と交流ができて良かった。話をきく授業が多くて大変だったけど、あっという間に2日間終わった。スポーツ大会や地域別プレゼンが楽しかった。						
	仲間について知ることができましたし、自分自身について見つめ直すことができました。とても充実した2日間を過ごすことができました。						
	新しい友達がたくさんできました。						
	学外授業で大学生活のことが少しわかることができましたし、ゼミの人たちとも仲良くなれました。						
	同じゼミの人となかよくなることができました。						
	最初はなかなかコミュニケーションがとれなかったが、みんなやさしく、とてもフレンドリーでよかった。						
	いろいろな人と話して楽しかった。						
	高校の時と違って自由だった。						
	この宿泊授業で、新しい出会いも沢山あり、仲間と協力して楽しく行事を行うことができました。						
新しくできた友人との交流が深められ、とても充実できた。							
高校とは違う新しい環境の中で、さまざまなことを学び、たくさん成長していきたいです。							
(改善点)							
全部屋バス・トイレ付が良かった。							
大浴場に入ることができない人がたくさんいて、1人当たりの入浴時間がとても大変だった。しかし、宿泊授業はとても楽しめた。							
各予定の待ち時間が長かった。(特に食後)							
友達を増やすというよりも、顔を広げるという感じだった。							
あの時、あのタイミングでプレゼンテーション大会をする意味が分かりませんでした。							

「全くできなかった」と「できなかった」の合計は12.1%であった。発表を引き受けた学生にとっては、かなり緊張する場面であり、リラックスできなかった学生が40%以上存在したことが要因と考えられる。

■「ゼミ対抗スポーツゲーム」

質問2-①は、「全くできなかった」、「できなかった」がそれぞれゼロ回答だった点が注目される。「よくできた」と「できた」を合わせて88.6%と高い数字の回答であった。チームワークを求められる内容が、学生同士の「仲良くなれた」という実感を導き出したと考えられる。

質問2-②も「全くできなかった」と「できなかった」がゼロ回答であった。さらに「よくできた」が52.1%、次いで「できた」が34.3%で、合わせて86.4%と学生自身が楽しんだ回答結果であった。ゼミ対抗としたことやゲーム感覚の要素が高評価に繋がり、交流プログラムとしての成功例であったと考えられる。

質問2-③の回答では、「できた」が一番多く37.9%で、「よくできた」と合わせて69.3%という結果であった。

■「大学生生活論『自分をプロデュースする』」

質問3-①については、「全くできなかった」と「できなかった」がゼロ回答で、「よくできた」が55.7%、「できた」を含めると88.6%、「普通」の11.4%を合計すると、全員が実感できたことになる。

質問3-②に対しても、「全くできなかった」と「できなかった」がゼロ回答で、「よくできた」と「できた」を合わせると92.2%の回答であり、ほぼ全員理解ができたようである。

質問3-③については、「できた」が54.3%半数以上の回答であり、「よくできた」25.7%と合

わせると、80%の学生がイメージできている。しかし、残りの20%が今後の学生生活のイメージがよくできていないという結果にも注目しなければならない。

2-1-3 各プログラムの評価比較

次に、アンケート集計結果とは別に、【質問1】から【質問4】の内容について【質問1】は、Q1-1、Q1-2、Q1-3、【質問2】Q2-1、Q2-2、Q2-3、【質問3】Q3-1、Q3-2、Q3-3、【質問4】に対する回答を入力し、各質問項目の評価と平均を算出した（表2-2）。さらに学生の評価をプログラムごとに集計して平均値を算出し、これをもとに、学生のプログラムに対する総合評価を算出した（表2-3）。

この結果、「ゼミ対抗スポーツゲーム」と「大学生生活論」の平均値が共に4.3であったのに対して、「プレゼンテーション大会」については、3.8と低い評価になった。①「自分の意見を発言することができましたか」③「リラックスできましたか」の2つの回答が3.6ととくに低く、要因としては、まず、人見知り、受け身的、対人スキルが未熟などの学生の特徴が考えられる。次に、話し合い、PowerPointの作成、発表をまとめる時間を30分という時間内で完成させる難しさがあった。

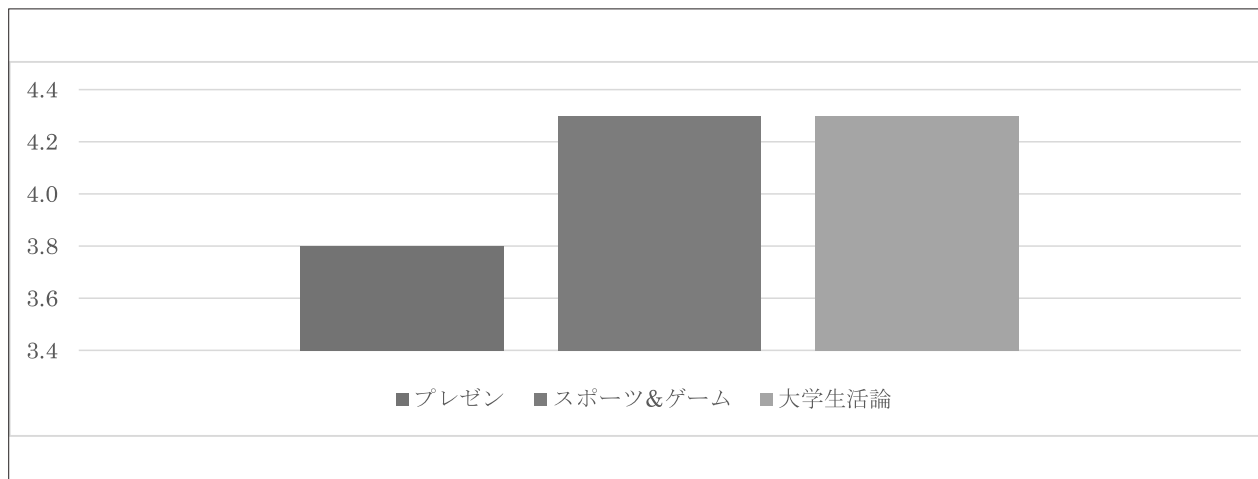
次に、「ゼミ対抗スポーツゲーム」について、「仲間と仲良くできましたか」の問いに対する回答が4.5と一番高く、平均でも、4.3と高評価であった。レクリエーションとしての要素もあったことから学生の満足が高く、学科全体での交流を図るという目的との整合性もあった。

「大学生生活論」では、①「2年間の短さを実感できましたか」と②「大学生と高校生の違いが理

表2-2 質問事項に対する平均

プレゼン大会				ゼミ対抗スポーツゲーム				大学生生活論			
Q1-1	Q1-2	Q1-3	平均	Q2-1	Q2-2	Q2-3	平均	Q3-1	Q3-2	Q3-3	平均
3.6	4.2	3.6	3.8	4.5	4.4	4.0	4.3	4.4	4.4	4.0	4.3

表 2-3 各プログラムの評価



解できましたか」の2項目で、4.4と高い評価であった。「今後の学生生活のイメージができたか」の評価が低い点については、この段階では具体的にプランニングすることが難しく、イメージが湧かないためであると思われる。

2-1-3 宿泊型授業・オリエンテーションに対する評価

アンケートの【質問4】と【質問5】は、宿泊型授業・オリエンテーション全体について「自分自身について『新しい気づき』ができましたか」という質問と、自由記述回答である。【質問4】で「新しい気づき」ができたとの回答が94.3%であった。【質問5】の自由記述回答には、「新しい友達ができ、とてもいい経験になった」や「仲間について知ることができましたし、自分自身について見つめ直すことができました。とても充実した2日間を過ごすことができました（原文ママ）」という記述があった。

2-1-4 自由記述回答の表現の分析

【質問5】の「その他、意見、希望、感想など」により、学生の自由記述コメントから文字数599文字のテキストデータを得た。このデータを、樋口（2017）が紹介する質的データ分析支援ソフト「Nvivo」で解析した。【質問5】から得たテキストデータのうち、出現頻度の高い言葉を一覧にし、さらに「単語クラウド」機能を活用して、データを単語レベルで自動的に視覚化した。

表 2-4 質問5の「出現頻出リスト」

語	長さ	カウント	重み付け(%)
とても	3	6	4.51
人	1	6	4.51
新しい	3	5	3.76
たくさん	4	4	3.01
授業	2	4	3.01
友達	2	3	2.26
楽しい	3	3	2.26
良い	2	3	2.26
ゼミ	2	2	1.50
交流	2	2	1.50
仲間	2	2	1.50
充実	2	2	1.50
大会	2	2	1.50
大変	2	2	1.50
宿泊	2	2	1.50
違う	2	2	1.50
高校	2	2	1.50

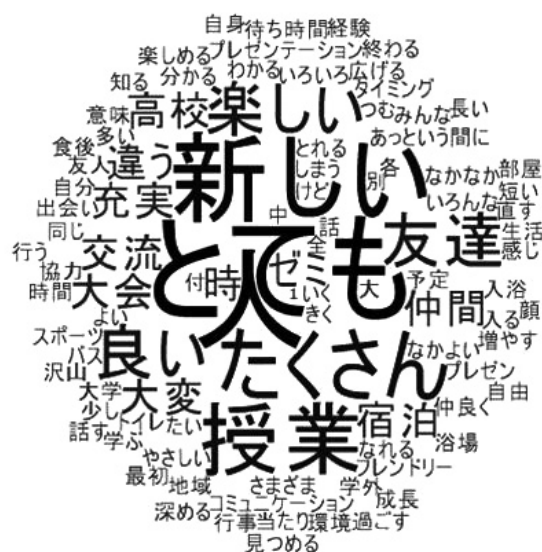


図 2-1 単語クラウド

カウント数6件の「とても」は、「よい経験」や「充実」、「フレンドリー」「楽しめた」など肯定的な言葉につながる副詞として5件利用されている。一方で「大変だった」という言葉に繋がっているのは1件のみだった。同じくカウント数が6件ある名詞「人」については、「いろいろな」「ゼミの」「友」などが付されているものが5件あった。「人」との関係を意識したコメントが数多く見られた。「新しい」「たくさん」「楽しい」「良い」といった肯定的な形容詞も頻出しており、宿泊型授業・オリエンテーションについて肯定的な感情で表現している学生が多いことがわかった。

2-2 教員によるプログラム評価

宿泊型授業・オリエンテーションの実施後、学生のアンケートによる評価だけでなく、担当した教職員自身の評価についてヒアリングを行った。5点満点で各プログラムを採点した平均点の結果は下記のとおりである。

図表 2-7 学生と教員のプログラム評価比較
※教員 (n=8)

プログラム	学生平均	教員平均
プレゼンテーション大会	3.8	4.75
ゼミ対抗スポーツ大会	4.3	4.625
大学生活論	4.3	4.5

最も顕著な相違は、プレゼンテーション大会についてで、教員の評価は高かったが、学生の評価はプログラム中最下位であった。教員は、発表の完成度を見て「短時間によくここまで仕上げた」という視点から、コミュニケーションがうまく図られる効果的なプログラムだったと考えて高評価になった。しかし、コミュニケーションを苦手とする学生も複数存在することから、学生にとっては最も低い評価になったと思われる。コミュニケーション能力は、社会で必要とされる重要な能力であるため、学生の弱みとならないように今後はよりきめの細かい、段階的なプログラムによって強化を図るべきであると言えよう。この点を踏まえて、今後のプログラム開発に留意して行きたい。

参考文献

- 樋口麻里 (2017). 質的データ分析支援ソフトウェアの機能と背景にある考え方：Atlas.ti 7とNVivo11の比較から, 年報人間科学/第38号, 193-210
- 古田雅明・中村紘子・香月菜々子・加藤美智子・田中優・西河正行・福島哲夫・堀洋元・向井敦子・八城薫 (2012). 新入生オリエンテーションに対する学生による評価の分析, 大妻女子大学人間関係学部紀要人間関係学研究, 14, 59-70